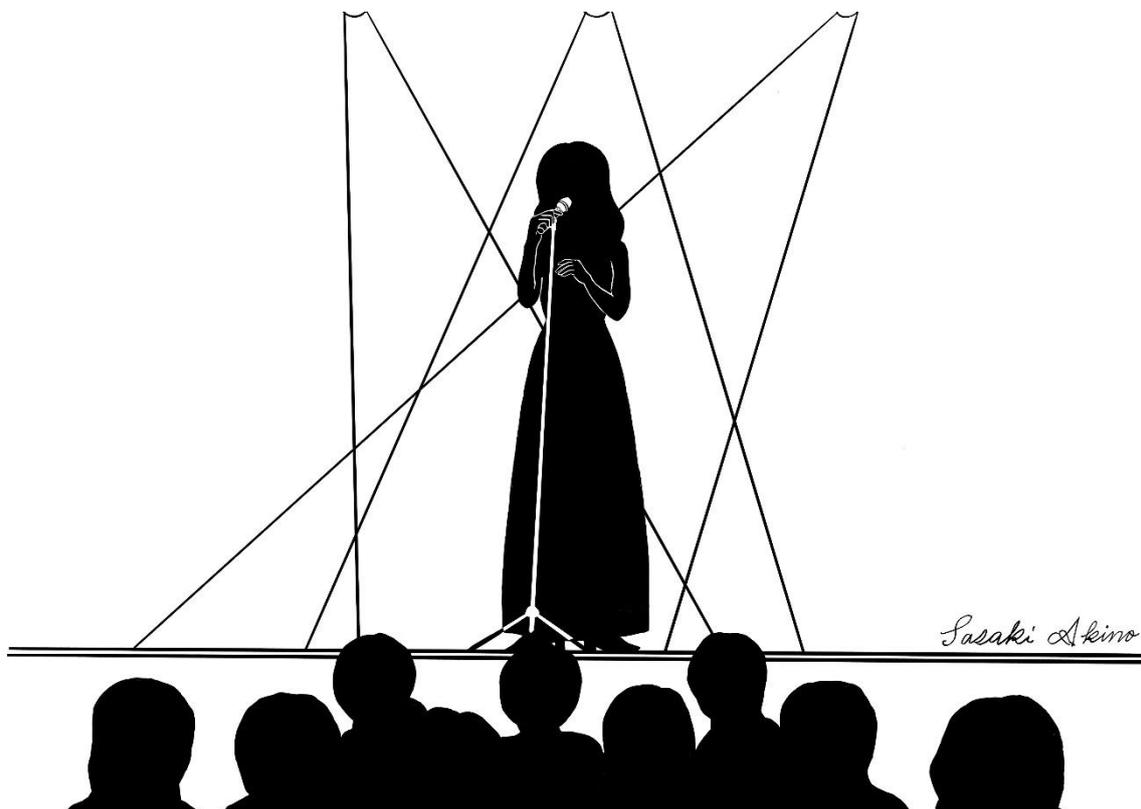


めいきょく
名曲シリーズ：ある女性歌手の物語



(Drawn by Akino SASAKI)

これは、ある女性歌手の物語です。



きょう
今日もステージの幕が開く。

わたし
私はいつものようにステージに立つ。スポットライトを浴びながら、口元に

えみをう浮かべて、こいうたうたわたし私にとってそれはいつもと同じ日常だ。私
ながねんゆめかしゆしごとあたらしだきよくだいにんきわたしの長年の夢だった歌手という仕事。新しく出した曲が大人気となって、私は
テレビでもざっしわだいまちある街を歩いている、みんなが振り返って、私
をみた。

わたしいまじぶんじんせいちょうてんきも私は、今自分は人生の頂点にいる、という気持ちでいっぱいだった。やっと、
やっと、じぶんゆめかなわたしさいこうしあわわたし自分の夢が叶った！そう、私は最高に幸せだったのだ、あの知らせが
とど届くまでは・・・。

てがみとどいっしゅうかんまえさしだしにんなまえみその手紙が届いたのは、一週間前のことだった。差出人の名前を見たとき、
わたしあたまなかひとわたしうわたしわかしか私の頭の中にはすぐに一つのイメージが浮かんだ。それは昔と変わらない、
いろあざしやしん色鮮やかな写真のように、はっきりとしていた。

かれわたしてつかあつあいじょうまなざわたしみ彼は私の手をしっかりと掴んで、その熱い愛情にあふれる眼差しで私を見
つめていた。そのめははっきりとわたしいわたし私に「行くな。」と言っていた。そして、私
はこころなかさけあいはわたしいは心の中で叫んでいた。「あなたのことを愛している。それでも、私は行く。」
そんなつよけつてもわたしかれしせんあそんな強い決意を持っていながら、私は彼に視線を合わせることができなかつ
た。なぜなら、かれきずかおみかれめなかた。なぜなら、彼の傷ついた顔だけは見たくなかったから。そして、彼の目の中
にうつみずわたしすがたみに映る、傷ついた私の姿を見たくなかったから。

かれてふきわたしうごはじきしゃとのかれ彼は手を振り切って、私は動き始めた汽車に飛び乗った。彼はきっと、その
ままプラットホームに立ち続けていたことだろう。わたしうしふかえ私は後ろを振り返らなかつ

た。でも、^{なみだ}涙の^めに^めじむ目には、はつきりと彼の^{かた}姿が^う浮かんでいた。

その手紙を^て手に^てとったとき、^{いや}すごく^よ嫌な^{かん}予感がした。その手紙は^て普通の^て手紙で
はなかつた。まるで^{だれ}誰かの^し死を^{つた}伝える^し知らせのように、^て手紙の^{ふち}縁が^{くろ}黒い。なぜ？

どうして？ ^て手紙を^あ開ける^て手が^{すこ}少し^{ふる}震えてしまった。

^{なか}中身を^よ読んだ。最初は、^{さいしよ}意味が^いわから^ななかつた。文字は^も読める。言葉も^よわかる。

でも、^い意味が^みわから^ななかつた。私は^{わたし}手紙を^て強く^{つよ}握り^{にぎ}しめたまま、^たじつと^た立ちつ
くしていた。

^{かた}彼の^{そうしき}葬式の日、^{わたし}私は^{えき}駅の^たプラットホームに^た立っていた。彼と^{わか}別れた^{ばしよ}場所だ。

^{そうしき}葬式の^{ばしよ}場所は、この^{えき}駅から^{ある}歩いて^{きやうかい}すぐの^{えき}教会だ。駅は^{ねんまえ}3年前と^かほとんど^か変わつ

てい^ななかつた。けれど、^と都会の^{せい}生活に^な慣れて^なしまった^{わたし}私にとって、^なほとんど

^{じやうきやく}乗客の^{しず}いない^{えき}静かな^{わたし}駅は、^し私の^{ばしよ}知っている^{おも}場所とは^{おも}思え^ななかつた。

^{わたし}私はこの^ひ日の^{ようい}ために^{くろ}用意した^も黒い^き喪服を^{きやうかい}着て、^む教会へ^{きやうかい}向かった。教会の^{まえ}前
で^{わたし}私は^たずっと^な立っていた。中^{はい}には^{はい}入ら^ななかつた。いや、^{はい}入れ^ななかつたのだ。彼

の^し死が^{ほんとう}本当の^{おも}ことと思え^ななかつた。現実^{げんじつ}だと思え^ななかつた。彼の^{かた}死を^し悲^{かな}しむ^{なみだ}涙

も、彼の^{かた}死に^し対する^{たい}祈りの^い言葉も、^{ことば}私は^{わたし}失^{うしな}っていた。

^{わたし}私は^{えき}駅へ^{もど}戻った。駅の^{えき}待合室で、^{つぎ}次の^{きしや}汽車を^ま待つ。人気^{にんき}歌手^{かしゆ}となつた^{わたし}私には

^{こんばん}今晚の^まステージが^ま待っている。また、^{こい}恋の^{うた}歌を^{うた}歌わなければ^なならない。たとえ、

わたし
私^{わたし}がその恋^{こい}を失^{うしな}ったとしても。

そのとき、^{えき}駅のラジオから、^{わたし}私の^{きょく}ヒット曲^{なが}が流^{なが}れてきた。私は、^{わたし}切^{せつ}ない声^{こえ}
で^{あま}甘い恋^{こい}の歌^{うた}を歌^{うた}っていた。でも、^{ひとり}一人きりの^{わたし}私^{わたし}には、^{こえ}その声^{うた}が、^{ほか}歌^{うた}が、^{ほか}他の
^し知らない誰^{だれ}かが歌^{うた}っている歌^{うた}のよう^きに聞^きこえた。

^{いま}今^{わたし}、私^{わたし}はスポットライトの下^{した}にいる。観客^{かんきやく}はみんな私^{わたし}を熱^{あつ}い目^めで見^みつめて
いる。そして、^{わたし}私の恋^{こい}の歌^{うた}を心^{こころ}待ち^ましている。私は口^{くち}に笑^えみを浮^うかべながら、
^{うた}歌^{うた}い出^だす。



これは “^{かつさい}喝采” という^{にほん}日本の^{うた}歌^{うた}の物^{もの}語^{がたり}です。^{きょうみ}興^{きょう}味^みがあれば、^{すてき}ぜひこの素^す敵^{てき}
^{うた}な歌^{うた}をインターネットで探^{さが}して、^き聴^きいてみて^{ください}ください。

(1372^じ字)

(2021.4 Written by Yuki MORI)



この作品^{きくひん}はクリエイティブ・コモンズ^{ひょうじ}表^{ひょう}示^じ - 非^ひ営^{えい}利^り - 継^{けい}承^{しょう} 4.0 国^{こく}際^{さい} ライ^{らい}セン^{せん}スの下^{もと}に提^{てい}供^{きょう}されています。この
作品^{きくひん}を利^り用^{りよう}する場^{ばい}合^あいは、「たどくのひろば」を^{しゅつてん}出^{しゅ}典^{てん}として示^{しめ}してください。

例^{れい}) 出^{しゅつてん}典^{てん}: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use

this work, please indicate the source as in the example above.